



JAあそだより

平成20年8月

飼料・肥料・燃料等 価格高騰及び木材価格低迷危機突破大会



写真:7月25日開催の「危機突破大会」

■今号16ページ主な内容

- JA阿蘇第7回総代会・新役員決まる
- 各生産部会で出荷・査定会
- 第3回「あそっ子スクール」開校
- JA阿蘇各関連の職員研修行われる ほか



● JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111 / FAX 0967-23-1088

就任に当たつてのご挨拶



代表理事会長
丸山 信義

6月26日開催の第7回通常総代会におきましては、全議案ご承認を頂き誠にありがとうございます。

ご案内のように、地方経済は依然として厳しい状況が続いており、景気回復には程遠い状況であり、加えて原油高による石油製品の価格の上昇による生産コストの増大、個人消費の伸び悩みも懸念され、農業・農村をめぐる情勢におきましても、農家戸数や農業就業人口の減少と、農業者の高齢化が進行し、また、新規就農者が年々減少する等、地域農業の担い手不足が深刻化しています。

更に、肥料や飼料原料の需給逼迫等の情勢等も重なり、常態化する異常気象の影響も懸念され、農産物価格低迷等による農業所得の減少が危惧される状況にあります。

このようなか、先の総代会後の理事会におきまして、代表理事会長を仰せつかりました。

これまでの組合長職の経験を活かし、JA阿蘇の主権者であります農家組合員の営農と生活を守るために、特に農産物の販売につきましては、特段の思いの中で営農指導と販売力の強化を目指します。

組合長・常務と意思を一つに役職員一体となり、組合員・利用者の利便性を確保しつつ地域との共存共栄を目指し、地域農業・地域社会に貢献するJA活動を展開してまいります。

JA阿蘇総合3ヵ年計画の2年度にあたり、財務の健全化を進めるとともに、経済事業改革を含め事業の効率化・合理化に重点的に取り組んでまいります。

組合員の皆様におかれましては、なお一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。



代表理事組合長
中尾 雄二

平成13年4月の阿蘇農協発足以来7年が経ちました。その間、米の不作などの気象災害・BSE等数々の困難を、組合員の皆様と共に乗り越えてきました。しかしながら、現下の状況はこれまでに経験したことのないような状況下にあります。飼料・肥料・生産資材の価格高騰・生産物価格の低迷など、我々の努力の限界を超えた部分が相当あり、これまで以上にJAとして団結した対応が求められていると思います。

「道に迷えば出発点に連れ」という言葉がありますが、JAが組合員はもとより地域社会から信頼されるための組織としてどうあるべきか、常に追求し続けていかねばなりません。まずは農産物販売戦略の更なる拡充を目指し

ます。阿蘇というブランドを持ちながら、充分な力が発揮されていません。品目ごとの部会の統合・出荷規格の統一・多元集荷一元販売は喫緊の課題と考えています。これまでの地域的な繋がりが等困難な問題がありますが、農家手取りの最大化を目指すには避けて通れない課題と考えています。また、財務体質の改善強化も重要な課題であります。運営にあたって無理・無駄・ムラはないか、施設の運営にあたって利便性・経済性のバランスはどうか、真剣な議論と英断をもって対処する覚悟です。

これから3年間、役員総力をあげて皆様の負担にのびるべく汗をかき所存です。組合員各位のこれまでも増してのご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。組合長就任の挨拶と致します。



代表理事常務
室原 昭博

この度、JA阿蘇代表理事常務に就任しました室原昭博です。営農・経済（購買）事業を担当致します。組合員の皆さまには何卒よろしくお願ひします。

今の農業を取り巻く情勢は、過去に経験したことのない程、厳しい状況の中にあります。生産資材の高騰を受けても農畜産物に価格転嫁できない苦しい面もあります。しかし、今が頑張るところだと思います。

まずは自分達でできることから積極的に取り組んでまいります。

1. 土壌分析による地方把握と施肥設計
 2. 単位収量アップと品質向上
 3. 農畜産物の有利販売の体制づくり
 4. 購買品は良品を安価に仕入れ供給していきます
- 皆さまの「指導」と「協力」をお願いします。



代表理事 常務
松村 勝美

今般の役員改選により代表理事常務に就任しました松村でございます。その職務の内容を鑑みたと責任の重大さを痛感致しております。

さて、最近の農業情勢は世界的な異常気象による食糧危機や農畜産物の偽証問題が社会をゆるがしている中、如何にしてより安全で安心できる農畜産物を消費者に供給できるかが重要な課題となっております。

一方、農家の経済状況は5年続きの不作と価格低迷によって年々減少を来しております。加えて世界貿易機構の農業交渉が最終局面を迎え、結果次第では日本の農業の根幹をゆるがす重要な時期に差しかかっています。また、原油高騰の影響を受け農業生産資材・燃料・飼料・肥料の価格が大幅に値上がりし、正しく農家経済はかつてないほどの危機的状況にあり先行不透明を加速させています。

このような状況を鑑みますとき、今こそ「JA

と農家組合員が一体となって、将来を見据えた足腰の強い農業を確立するための知恵をしばって、打開しなければならぬと考えております。

私は農業協同組合の基本理念を再認識し原点に返って、如何に農家組合員の自託に応えられるか、そして良好な農協運営が図られるか、真剣にかつ迅速に行動を起していく必要性を十二分に認識しながら、粉骨砕身、精一杯頑張る所存でありますので、組合員の皆様のご協力と、指導賜りますようお願い申し上げます。



常務監事
児玉 範幸

組合員の皆様には益々ご清栄の事とお慶びを申し上げます。平素より組合員の皆様には社会環境の激変する中、地域農業の振興と地域社会の発展のために、日夜ご精励いたたくとともに、「JA事業に深いご理解を、ご協力を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。

阿蘇は一つと大同団結し「JA阿蘇」として発足して、阿蘇地域の農業振興と組合員の農業所得向上を図ることを目的に合併して早や7年が経過しました。さて国内経済については、大企業や都市圏では生産の設備投資が増加傾向にありますが、中小企業や地方経済においては依然として景気の停滞が続いています。農業においてもWTO農業交渉による国境措置の見直し等も行われつつあり、FTA、EPAの拡大も進んでいます。

わが国の農業を取り巻く環境はめまぐるしく変貌し、食料自給率は39%と著しく低い状況にあります。また、輸入食品の残留農薬問題、流通段階での問題等、食の安全性に関する問題が発生し、国内農産物の見直し等、消費者の食と農への関心が高まっています。その一方で平成19年より導入された品目横断的経済安定対策に基づき農業の政策転換が実行されている中、ここに来て原油価格の高騰が輸入穀物の高騰をはじめ、国内企業を含めもはや生産者の努力の限界を超え、極めて厳しい経営状況にあります。

合併以来、組合員の自託に応えるためにまるごと阿蘇ブランド計画を基本方針として地域農業戦略、経営刷新計画、生活活動計画、教育活動計画、総合財務損益計画等を実行しつつ、組合員と共に役員一体となり取り組まれております。監事としても、組合員並びに組合利用者の自託に応える「JA経営を確保するために理事の執行体制、財務管理状況等、経営が計画的にされ業務活動が法令・定款等に準拠し、かつ「JAの方針に従って合理的・効率的に運用されているか」監事監査規程に従って改善・整備を求めてきました。組合員のための農協であることを目指して監事として責務に尚一層努力いたします。

最後に組合員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶と致します。



新役員のご紹介

理事 事

(区域または区分)



三森 和義
旧阿蘇一の宮農協
坂栗支所



蔵原 経敏
旧阿蘇一の宮農協
宮地支所



大塚 恵志
旧白水



橋本 秀一
南小国町



内田 稔
西原



今村 秋敏
西原



佐々木正純
旧波野村農協



高橋 達雄
旧産山村農協



岩下 誠志
旧阿蘇一の宮農協
吉城支所



草村 征憲
高森・野尻



宇藤 仁
高森・野尻



森田 勝
高森・野尻



興梠 修
旧蘇陽



山邊 眞治
旧蘇陽



清田 一也
旧黒川農協



長野 恵蔵
旧長陽



今村 健正
旧久木野



工藤 保雄
旧久木野



興梠 政純
旧白水



高村 祝次
小国町



上野 政重
旧阿蘇町農協
尾ヶ石支所・永水支所



石田 哲也
旧阿蘇町農協
内牧支所・乙姫支所



森本 一仁
旧阿蘇町農協
山田支所・第一支所



甲斐 吉郎
旧黒川農協



田中 弘子
女性部



今村 孝典
青壮年部



宇都宮昭三
小国町



河津 悦雄
小国町



原山 輝義
小国町



下田 盛久
旧白水



室原 節信
南小国町



宮川 英明
旧蘇陽

監事
(区域または区分)



笹原 光司
旧阿蘇一の宮農協中通支所



工藤 西男
高森・野尻



蔵本 悦治
旧阿蘇町農協山田支所・第一支所

組合長に中尾氏、丸山前組合長は会長に

常務に室原・松村両氏を選出

常勤監事は児玉氏



第7回JA阿蘇総代会会場の様子

JA阿蘇の第7回通常総代会が6月26日、阿蘇市体育館で総代412人(委任状含む)をはじめ、来賓・JA関係者ら多数が出席して開かれました。

冒頭挨拶で、丸山信義組合長は原油価格や生産資材の高騰で、農業を取り巻く厳しい社会環境や経済状況に燃れ、関係機関へ早急な対策を求めました。そして「今後とも組合員・利用者の利便性を確保し、地域との共存共栄を目指し、地域農業・地域社会に貢献できるJA活動を展開してまいります」と述べました。続いて時松昭弘氏を議長に選任し、提出議案の第1号議案から第7

号議案まで執行部から提案説明が行われ、質疑応答の結果、全議案及び附帯決議が承認されました。

通常総代会後開かれた理事会で、代表理事会長に丸山信義氏(旧阿蘇町農協内牧支所・乙姫支所区域)、同組合長に中尾雄二氏(旧長陽区域)、同常務に室原昭博氏(南小国町区域)と松村勝美氏(旧阿蘇町農協尾ケ石支所・永水支所区域)が、常勤監事には児玉範幸氏が選出されました。(新役員の)挨拶及びご紹介は本紙26・27頁に掲載

生産現場は限界を超えている 資材価格等危機突破大会で訴え

農政連阿蘇総支部とJA阿蘇は7月25日、原油価格や異常気象の影響などによる穀物需要の圧迫等で、飼料・肥料・燃料価格の高騰や木材価格の低迷を受け、危機突破大会(表紙写真参照)を阿蘇市で開催しました。大会には生産者をはじめ県選出国會議員、県議會議員、地元市町村長、阿蘇管内畜産酪農協、森林組合役員など約900人が参加しました。大会では丸山信義農政連阿蘇総支部長が「世界的に環境問題と食

料問題がキーワードになる時代。もはや生産者の自助努力だけではどうにもならない状態。国に対して「農業・畜産・林業は必要ですか」と問いたい。生産コストは急騰しているにもかかわらず、農畜産林業価格への価格転嫁ができない状況にある。省エネ対策の実施や有機物の活用など、生産現場は必死に努力しているが、飼料・肥料・燃料価格の急騰はもはや生産者の限界を超え、極めて厳しい経営を強いられている」と現状を訴えました。

また、今村孝典JA阿蘇理事も「生産資材や肥料価格の高騰は非常に不安だ。また価格高騰を実感していない農家もあるので、訴えることは意義がある。行動を起せば政策は変わる」と力説していました。

平成19年度 表彰行われる

第7回総代会に先立ち、平成19年度表彰が行われ、次の方々に丸山組合長から表彰状が贈られました。

■営農関係者(管内)

- 農産(米)官崎 明(南部管農C)
- 農産(麦・大豆)山本平八郎(中部管農C)
- 園芸(大根・ホウレン草) 穴見 正利(小国郷管農C)

- 園芸(アスパラ)室 治夫(中部管農C)
- 園芸(トマト)原田 忍(南部管農C)
- 畜産(酪農)北里 千尋(小国郷管農C)
- 畜産(肉用牛)高藤 辰巳(中部管農C)
- 畜産(繁殖牛)栗屋 普光(南部管農C)

■共済契約高齢者

- 菅原 敏夫(2)の宮中央支所管内
- 河島 光義(2)の宮中央支所管内

■永年勤続者(職員30年)

- 宮本 勝代(小国郷中央支所)
- 宇都宮 豊(2)の宮中央支所
- 眞原美智生(蘇陽中央支所)
- 飯屋 澄子(蘇陽中央支所)
- 本田 武昭(南部農機車庫センター)
- 加藤 清孝(白水中央支所)
- 佐藤 正(小国郷管農センター)
- 惣川 充(南部管農センター)

■永年勤続者(職員20年)

- 杉野 優子(管農部)
- 松岡 勝也(購買部)
- 鈴木 祐司(小国郷中央支所)
- 田上 清勝(蘇陽中央支所)
- 吉山美智子(白水中央支所)
- 他力 睦子(白水中央支所)
- 飯沼 由彦(小国郷管農センター)
- 佐藤 修一(中部管農センター)
- 峯 崇(南部管農センター)

出荷規格などを確認

蘇陽地区夏秋野菜合同出荷査定会

平成20年度野菜出荷



出荷規格を説明するJA担当職員

蘇陽地区で6月24日、生産者ら130人が参加し08年度夏秋野菜合同出荷査定会が行われました。同地区では一人の生産者が多品目の出荷を行っていることなどもあり、例年、野菜共販連営部会が合同で出荷査定会を行っています。査定会に先立ち中矢美記男運営部会長が「肥料価格の値上げなど農業情勢を取り巻く環境は厳しくなっているが、良い品物を作って消費地に安定供給が出来るよう頑張ります」と挨拶。また、市場より「阿蘇ブランドは他産地に負けておらず、今後も安定供給に力を入れてください」とエールが送られました。一方、生産履歴の確実な記載やポジティブリストに対しての再確認など「安全性」を重視する声も聞かれました。査定会では、サヤインゲンなど8品目の出荷規格の説明が行われました。蘇陽地区では8品目で出荷数量577トン、販売金額1億6千万円を計画しています。

味も食感も抜群！本格的に出荷

白水ミニトマト部会



白水ミニトマト部会では、6月より九州内市場に08年度産ミニトマト出荷が始まりました。同部会は昨年度、県野菜振興協会団体功労賞を受賞し、長年にわたる高品質商品の出荷に市場からも高い評価を得ています。08年度は定植後の夜温低下などの影響があり、現在の出荷数量は日量3000〜5000パックです。JA販売担当の中川慎一職員は「生育は遅れていたが、現在は順調な生育をしており、味と品質はどの産地にも負けない自信がある」と今後の販売を期待しています。

本年度は栽培者24人（前年比92%）、栽培面積5.5ha（同90%）、出荷数量244トン（同108%）。8〜9月をピークに11月まで出荷を予定し、1億6千万円の販売金額を目指します。

05年に新設された南部集出荷処理施設のカラセンサー付き選果機で、高度な選果規格均一化で高品質な商品を出荷している。

販売高6億めざし選果開始

南部トマト部会

南部トマト部会は08年度大玉トマト選果を南部集出荷野蔵施設（南部野菜センター）で6月25日より開始しました。今シーズン初選果ということもあり、開始前に規格の説明・日ぞろえ会を行いました。同部会では定期的に行う日ぞろえ会を開き安定した商品の出荷を行うっており、県内外市場から高い評価を得ています。担当職員は「今年は一時期の低温によりやや生育が遅れたが、その後の生育は問題なく玉肥大も良好。甘みもあり自信を持っておいしいトマトが出荷できる」と今後の販売に期待しています。

08年度の目標販売高は6億円、出荷数量は1808トン、を計画。当日は140ケースを九州内の市場へ出荷しました。今後は8月をピークに九州・中国地方へ出荷予定です。



真剣な眼差しで農作物の検査を行うJA職員

学校給食へ「ヒゴムラサキ」贈る

青壮年部高森支部



中野晃校長へ「ヒゴムラサキ」を贈る三森支部長（写真＝左）

地元で取れた野菜を子供たちに食べて欲しいと、青壮年部高森支部は6月19日、高森中央小学校給食用にと高森町特産のナス「ヒゴムラサキ」を贈りました。三森伸治支部長が「心を込めて育てたナスです。児童の皆さんで高森町で出来たおいしいナスを味わってください」と手渡しました。

今年度は「ヒヨムラサキ」の
ブランド確立に全力

南部なす部会



JA職員・市場関係者による等級の確認

南部なす部会(三森伸治部会長)は6月13日、08年度出荷査定会を高森町で行い、生産者ら約50人が参加しました。本年産の出荷は5月上旬より始まっていますが、本格的な出荷を前に各等級や出荷要領の確認をしました。

三森部会長は冒頭に、「今年度はヒヨムラサキのブランド確立に力を入れていきたい。そのために販売促進研究会も作ったので、部会も丸となって販売促進に協力して欲しい」と力強く挨拶しました。

ヒヨムラサキは5年前から高森地区の特産品として導入され、今年度の作付面積は3.5ha(前年比1.3%)、生産者24人(同1.2%)となっており、JA

の担当者は「年々、秀品率と収量は上がっており、消費地からの問い合わせも増えている」と今後の販売に期待をしていますが。

種馬鈴薯の生育順調
JA阿蘇野尻地区

南部管農センター管内の野尻地区では、種馬鈴薯春作産第2期圃場調査が6月18日、JA関係者らによって行われ12人の各圃場を巡回、株を抜き取り病虫害の有無など調査をしました。同地区では、種馬鈴薯栽培が10年以上前から行われ、鹿兒島を主に各産地に高品質の種馬鈴薯を供給し、高い評価を受けています。今年度の作付面積は約8.6haとなっています。今後も7月上旬に再度抜き取り調査を行い、生産量調査が行われ、9月上旬には出荷査定会が行われる予定です。



圃場調査を行うJA関係者

阿蘇高原夏秋トマト出荷始まる
阿蘇中部トマト部会



阿蘇野菜選果場では特産トマトの出荷が6月中旬から始まっています。JA阿蘇の中でも上位の作付面積を誇る夏秋トマト。寒暖の差があるため肥培管理が難しい反面、食味は申し分ありません。出荷は11月下旬頃まで続けられます。

夏秋トマト8億6000万円見込む

JA阿蘇中部トマト部会

中部トマト部会は6月16日、JA阿蘇一の宮中央支所で生産者・行政・JA・市場関係者ら170人が参加し、08年度産トマト出荷査定会を開きました。森政義部会長宣旨が、「いよいよトマトの出荷が本格的に始まり、今年は経費削減のため、九州



域内の市場を中心に販売する。査定会の説明内容を生産者各位が

よく遵守し、出荷して頂きたい」と挨拶しました。続いてJA指導員から08年度産生育状況報告があり、各市場より情勢報告が行われました。また、出荷計画・利用料金・持ち込み要領について、販売担当より説明が行われました。今年度は作付面積35ha(前年対比100%)、生産者150人(前年対比101%)、出荷計画72万ケース(48箱入)で8億6400万円の販売額を見込んでいます。

JA阿蘇中部ミニトマト部会



中部ミニトマト部会ではエコファーマーにも取り組んでおり、安心・安全な作物生産を目指しています。出荷は6月29日から始まり、同部会員の石松信也さんのハウスでも4月下旬に定植したミニトマトが初出荷されました。

栽培現況については定植後から平均気温が低く、低温障害等の発生が心配されましたが、温度管理の徹底を図り害虫の発生も少なく順調に生育してい

各生産部会で出荷・査定会「中部」

(右ページから続く)
ます。笹原J.A職員は「長期間の作業だが肥培管理を十分に指導し、10a当りの収量を5t以上生産したい」と抱負を語っています。出荷は11月下旬まで続きます。(写真：播種指導をする笹原職員)

夏秋キュウリ出荷スタート 中部キュウリ部会



一の宮地区では6月3日から夏秋キュウリの出荷が始まりました。部会員の市原伸博さんのハウスでは、4月下旬に定植したキュウリが天候にも恵まれ順調に初出荷を迎えました。指導員の井手友和J.A職員は「肥培管理を十分に指導し、10a当たり収量を12t以上生産したい」と語っていました。

同部会では、主にブルームレスキュウリとブルームキュウリの2種類の栽培を行っており、ブルームレスは地元、ブルームについては福岡市場へ出荷を予定しています。販売担当の草尾J.A職員は「販売促進等を行い、J.A阿蘇のおいしいキュウリをさらにPRしたい」と語っていました。

肥培管理の徹底を 中部キュウリ部会査定会



挨拶をする阿蘇品部会長

中部キュウリ部会は6月20日、一の宮選果場で生産者やJ.A・市場関係者など30人が参加し、08年度産キュウリ出荷査定会を開催しました。

阿蘇品春輝部会長が「7月から肥料等の生産資材の高騰が報道されており、今後の肥培管理に影響が出ないように出荷を頑張ってください。また、査定会の説明内容を生産者がよく遵守してもらいたい」と挨拶。次に各市場より情勢報告を受け、出荷計画、利用料金、持ち込み要領について販売担当より説明がありました。

米・麦・大豆(2年3作)推進 阿蘇市で大麦刈り取り 作付けは3割拡大

阿蘇市で6月4日より08年度産大麦(2年3作)の刈り取りが始まり、その後、大豆播種作業へ展開されます。

同地域では水稲に代わる所得確保・生産性向上を目標に、米・麦・大豆の「2年3作」の推進を生産者・行政・J.Aの協力で、大麦作付け規模拡大に努めた結果、08年度は136ha(前年対比31%増)となりました。今後、阿蘇の大麦の知名度向上へ向けた販路拡大が期待されています。収穫した大麦はJ.A阿蘇カントリー



ーで乾燥調整を行い、品位等級受検に臨みます。収穫量は前年並み(10a/300kg)で、安堵の声が聞かれていました。

麦跡圃場で大豆の

播種作業

阿蘇市で6月6日、08年度産大豆の播種が麦跡圃場で始まり、J.A阿蘇として初めて大豆収量向上を目指します。大麦刈り取り後の麦藁を鋤込み、土壌の締め付けを緩和し大豆収量を上げ、水捌けの向上と麦わらの堆肥効果により、湿田や連作を嫌う大豆栽培の圃場の乾田化や計画的なブロックローテーション(水系単位での団地化)への取り組みが、重要な作業となります。また「2年3作」の中で大豆前の大麦作付けも順調な伸びを示し、大麦跡圃場における大豆の品質・収量の拡

大に農家サイドからも期待が高まっています。栽培面積は前並みの500ha、麦跡の大豆面積は前年の46haに比べ、08年度は136haと大きく伸びています。

「阿蘇高原りんご」立毛品評会 16園が参加

一の宮町の草地区で、高原りんご立毛品評会が6月19日、同部会部員10人の主催で県普及指導課・経済連・生産者・J.A関係者ら20人が出席行われました。各園場の1年・2年・3年生の早生系りんごを対象に、立毛内容・圃場の様子・管理状況・病害虫の発生状況等を総合的に審査・採点しました。笹原祥樹花卉指導員は「例年に比べ気温が低く生育が若干遅れ気味だが、病害虫等の発生も目立たなく今後の出荷が楽しみ」と語っていました。現在、同部会の栽培面積7haで出荷245万本を計画しています。



各生産部会で出荷・査定会「小国郷」

子牛取引価格が下落傾向 小国郷家畜市場



小国郷家畜市場では6月5日、牛のせり市があり、あか雌35頭・あか去勢45頭・黒雌8頭・黒去勢11頭の計99頭が上場されました。平均価格はあか雌18万6067円、あか去勢23万2654円、黒雌31万5175円、黒去勢39万4065円でした。

小国郷営農センター事業課長は安値状況を「6月小国郷家畜市場においては、肥育牛（枝肉相場）が弱く、配合飼料高騰もあり、特にあか牛は熊本が主産地であるため、流通範囲が限られた地域であること。一番の原因は少子化問題、最近では原油価格高騰、消費者の財布のヒモが固くなったのも原因。このため、あか牛枝肉単価と等級1000円弱のため、今出荷している牛については、赤字状態であることから子牛価格に影響

響している。また、黒毛価格も枝肉相場が弱いため、高騰時より15万円程度下げているが、特にあか牛子牛相場が現状のまま続けば、管内のあか牛は全滅するのでは……と、厳しい表情で語っていました。

「信頼・信用・高品質出荷」誓う 小国郷花卉出荷協議会



小国郷花卉部会は6月6日、井野光春部会長のハウス園場で08年度産花卉出荷協議会を開き、生産者やJA・市場関係ら29人が出席しました。一行は協議会前に部会員全員のハウスを巡回し、現在の生育調査・品目別出荷予定日の確認・出荷要領など意見交換を行いました。協議会では井野部会長が「消費者の声を聞き、信用・信頼・高品質をスローガンに部会員全員一丸となって頑張ろう」と挨拶し、JA担当者より08年度産の販売・出荷計画、出荷要領の説明などが行われました。

08年度は12人の生産者が25haを裁

培。11月までに九州管内を中心に160万本の出荷を計画しています。

香り、美味しさ抜群のぞき！ 開新茶即売会

小国郷営農センター製茶工場では6月20日、開新茶の即売会を開き、雨にもかかわらず多くの客でにぎわいを見せました。販売担当の清高直樹JA職員は「今年の一番茶は、高冷地特有の寒暖の影響で、ここ数年にない香り高い美味しなお茶ができた」と自信満々の表情で話していました。この新茶はJA小国郷中央支所や関連施設でも販売されています。



お問い合わせは
小国郷営農センター農産課
電話0969-463302

恒例「きものまつり」 大盛況



6月13・14の両日、阿蘇町中央支所特設会場恒例「きものまつり」が開かれました。会場には七五三や振袖などの着物のほか、和装飾品や健康相談コーナーなど設けられ、開会式と同時に多くの来場者でにぎわいました。

女性部3支部合同で 健康教室



南部地区女性部では、白水・久木野・長瀬の3支部合同で、6月3日より健康教室を始めました。当日は家の光協会の萬野俊子氏を講師として迎え、健康体操などを行いました。



1999年8月「朝どり市」が店舗を構え、今年で9周年を迎えます。新鮮・安価・信頼で人気の「朝どり市」は県内外からのリピーターも多く、地産地消に力を入れている温泉旅館や飲食店関係者からも仕入れに利用しています。開店当初は130戸だった会員も現在では350戸に増え、出展の品は野菜のほか手作り饅頭・団子・弁当・こんにやく・豆腐など多彩です。小国郷特産のジャージー牛乳や全国農林大臣賞受賞のヨークルトなどの加工品・乾物・漬物など、ここ小国郷でしか味わえない物も店頭に並んでいます。

一方、台風・長雨異常気象などの影響で生産量が減少し、管内では十分な商品提供ができないという課題もあります。朝どり市委員長の下城澄男さんは「新鮮で安全で美味しい野菜をより多

く提供できるよう、会員の生産者とともに頑張っていきたい」と抱負を語り、当スタッフの宇野ゆい子さんも「利用者にとさらに喜んでもらうため、月1回のお楽しみイベント、キャンペーン活動、ポイントカードプレゼントにジャージー牛乳1リットル小国郷特産エコパックを検討中」など実施していきたい」と意欲を新たにしていました。

長寿の方々17人を表彰 年金受給者連盟阿蘇支部



慶祝者表彰を受けた長寿の方々

農林年金受給者連盟阿蘇支部は6月23日、阿蘇市で65人が参加し通常総会を開き全議案を承認しました。

原山勝岡副支部長写真1下が「後期高齢者保険制度が始まり受給者には



厳しい状況にあるが、新規受給者の会員加入促進を行い、支部活動を充実させた

い」と挨拶。その後、2008年度慶祝者表彰に移り、米寿8人、喜寿9人に表彰状と記念品が贈られました。

総会後は「農林年金をめぐる情勢について」と題し、県農林年金相談員の岡本正憲さんが特例年金制度見直しの動きなどについて講演をしました。

阿蘇米の作柄状況を確認 2008年稲作指導班会議



J A阿蘇稲作指導班は6月20日、内牧支所で県普及指導課、肥料・農薬メーカー、J A関係者ら28人が参加し、08

年産稲作指導班会議を開きました。

先ず、中部・小国郷・南部の3営農センターより作柄状況について「今年は例年に比べ田植えが一週間程度遅くなり5月中旬がピークとなった。生育状況は各営農センターも順調で病害虫も発生していない」と報告がありました。また、県経済連より原料高騰による肥料価格の値上がりについて、各メーカーより試験田の説明が行われました。

指導担当者からは「肥料・農薬の値上がりで、今まで以上に農業経営は困難な状況にある。肥料・農薬ともに予約制度を確立し、安定供給と年間一般価格を強く進めていきたい。また、農産物価格が低迷する中で阿蘇産米の品質向上と有利販売に向けて指導を徹底していきたい」と意見が出されました。

08年のJ A阿蘇の主食用水稲作付面積は約6500ha、08年産米出荷予約数量は28万俵となっています。

真剣な眼差しで正確に見極める 農産物検査員技能確認会

J A阿蘇は6月27日、一の宮中央支所支所で米・麦・大豆など5種類の農産物の等級分けや、うるち・玄米8種類を見て銘柄を判別する検査員技能確認会を行いました。検査員やJ A職員など27人が真剣な眼差しで農産物の入った皿を観き込みながら、等級分けを行っていました。

5月31日、南部営農センターで「まるごとあそびスクール」開校式がありました。第3回となる今年度は阿蘇郡市の小学校より48人が参加。開校式では、同スクール校長の丸山信義組合長が、「たくさんのお友達と楽しい思い出を作って1年間頑張ります」と挨拶。スクール生徒代表の白水小6年の北ひかりさんが「農業と食の大切さを学び、友達をたくさんつくりたい」と抱負を述べました。開校式後、子供たちはサツマイモ苗の移植を体験。JA職員の指導を受けながら、慣れない手つきでマルチに穴を開けて苗を植え付けていました。続いてイチゴ狩りを体験し子供たちは口いっぱい頬張っていました。今後「あそびスクール」では、キャンプやソバの植え付けなどを体験する予定です。



マルチに穴を開けてサツマイモ苗を植付ける

子供たちの農業体験に積極的に取り組む JA阿蘇青壮年部高森支部

■高森中央小5年生と田植え

青壮年部高森支部は5月29日、高森中央小5年生と一緒に田植えをしました。田植えでは水田に初めて入る児童が多く、足を入れた子供たちから大きな歓声が上がりました。三森伸治支部長は、「今までの食農教育は田植えをして稲刈りで終わっていたが、私たちは水田で出来る物をすべて利用し、自然の大切さが少しでも伝わればよいと考え、農業の喜びを知ってもらいたい」と語っていました。今後は水田での作業をすべて児童らに任せ、種まき・草取り・稲刈り・脱もち作り、取れたわらで納豆・しめ縄作りを行う予定です。



田植えに慣れてくると作業もスイスイ進んだ

「食料自給率向上は私たちから」 高森中央小3年生が大豆の種まく



作業前、歓声をあげる子供たち

大豆を植えて「食料自給率を上げよう」と、青壮年部高森支部は7月1日、高森中央小3年生46人と一緒に大豆の種をまきました。この活動は全国の小・中学校に広まりつつある「大豆100粒運動」の一環で、同小学校が九州で初めての取り組みです。また大豆は正統時代、高森町で発見された在来品種「みさを大豆」で、食品会社の丸美屋が農業生物資源ジーンバンクより106粒の原種を入手し、種取りに成功した種を使用しました。同支部の荒牧光博さんは「現在、日本で使用している大豆の9割以上が海外からの輸入に頼っています。高森町に昔から伝わる「みさを大豆」を栽培することで、食料に対する危機感をもっと身近に感じて欲しい。ぜひ、この活動を全国に広め日本の食料自給率

を向上させたいです」と語っていました。今後、11月に収穫を迎え、子供たちと一緒に豆腐・納豆・味噌造りを行う予定です。

■荒廃農地をヒマワリ畑に

耕作放棄地をヒマワリ畑にして町の観光に役立てようと、青壮年部高森支部が6月18日、高森中央小1年生53人と一緒にヒマワリの種をまきました。場所は同町の観光スポットである湧水トンネル隣の畑。農地の荒廃が進み景観が悪いだけでなく、病害虫の発生が心配されていました。ヒマワリは2か月後に咲く予定です。三森伸治同支部長は「高森町は高齢化が進み、耕作放棄地が増えてきている。農地をどのように守っていくかが私たち農業の担い手の課題。今回ヒマワリをまくことで意識改革し、少しでも耕作放棄地が減っていくようにこの活動を進めていきたい」と力強く語っていました。



ヒマワリの種をまく子供たち

韓国の農家22組が

一の宮町手野地区で民泊



阿蘇市一の宮町手野地区の民泊15軒の中の8軒に、韓国から訪れた農家22組の夫婦と引率者2人が、6月24日から25日にかけ1泊し、日本の農業の事情などについて地元農家との交流会を開きました。これは、韓国の農業団体と阿蘇グリーンストックが主催した企画によるものです。

韓国からの訪問者のうち5人を受け入れた菅美佐子JA阿蘇女性部長は、「言葉は分からなかったが、農業についてとても意欲的で元気な人たちがばかり。そして韓国全土から集まった優秀な農家の人で、知らないはずなのに仲がよく、家族を大事にすることを日本人以上に感じました」と感想を話していました。

「痛快!どろんこ塾」のテレビ取材
渡邊保明さん(旧蘇陽町)園場で撮影



熊本放送(RKK)で毎週日曜日の午前10時30分から15分間放映されている「痛快!どろんこ塾」の撮影が7月5日、山都町(旧蘇陽町)の渡邊保明さんの園場で行われました。

「痛快!どろんこ塾」は、農業・農村の在り方、真の農業・農村理解を求め、ため、生産者の一方的な発信だけではなく、消費者を巻き込んだ効果的な広報活動として「アグリウォッチング」に変わり、今年4月から放送されている番組です。



番組の構成は小学生と案内人が蘇陽特産のブルーベリーを調べるという内容です。園場を訪れた熊本市の上村綾乃(小5)さんと、緒方らら(小3)さんは、ブルーベリーが木になっていることにびっくりした様子で、収穫の時期などを渡邊さんに質問していました。またブルーベリーを食べた人らは「甘ずっぱいけどおいしい」と感想をもらっていました。この後は大豆播種なども体験しました。

取材に応じた渡邊さんは「私の地域では本年度、小学校に通学する子どもがいなくなり、日本の人口は減少する一方で、世界的には増加している。命を守る農業を取り巻く環境は、原油高、自然災害による肥料・資材等の値上がりで既に限界がきている。今一度、日本の農業、自然環境を守るために、そして次世代につなぐために、日本農業に対し温かい理解と協力を頂きたい」と、農業に対する思いを語っていました。

JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏名	新 任 令	発 令 年 月 日	旧 任 令
佐伯一雄	審査・債権対策室長	平成20年6月2日	金融共済部審査・債権対策課(部長待遇)
山本栄二	審査・債権対策室審査・債権対策課長	平成20年6月2日	金融共済部審査・債権対策課全地区課長
山本栄二	審査・債権対策室審査・債権対策課長兼一の宮中央支所金融課長出向	平成20年6月13日	審査・債権対策室審査・債権対策課長
高橋鶴也	波野支所長	平成20年6月13日	一の宮中央支所金融課長

■地域の細やかな情報発信を JA阿蘇通信員会議



日本農業新聞に送稿する広報通信員会議が5月29日、本所であり8人が出席しました。会議では07年度実績報告と08年度の

取り組みについて協議し、記事の書き方など基本的なことを確認しました。時松誠也総務人事課長から「通信員みんなで協力し阿蘇の情報を発信してほしい」と激励があり、通信員二人一人に委嘱状が交付されました。

■さらなる職務レベルアップを 購買部門職員研修会



JA阿蘇は6月11日から19日まで購買職員研修会(11日)給油所所属新規職員対象、

12日)事業所新規管理職対象)を本所で行いました。今回の研修は本所事務電算室と購買部で初めて

企画したもので、各職員の職務分担別、職制規程別に4段階に分け実施し、購買部門職員のさらなる職務レベル向上を図ることが目的です。開会にあたり

伊藤健司購買部長が「業務が多種多様化している中、縦横のつながりを持ち、本日の研修が即実践され役立つことを期待する」と述べ、研修に移りました。講師には本所の購買課長や経理担当係があたり、JAの仕組みや取り組みの基本的なことから、一連の業務の流れ、法令の基礎、決算の重要性や職務権限、責任の重要事項を各階層別に行いました。

初日の給油所新規職員研修に参加した白水給油所の目久見祐介職員は、給油所が組合員や地域住民に直結した重要な仕事だと再認識できた。経理については知識があまり無かったので勉強になった。実践に活かしていくと感想を語っていました。

■08年度推進目標を確認 全体職員事業推進大会

JA阿蘇は08年度事業目標必達に向け6月21日、全体職員事業推進大会を阿蘇市で開き、役員580人が参加しました。まず丸山信義組合長が、役員一体となり自信を持って推進活動に取り組んでほしいと挨拶。大会では08年度事業計画、推進目標についての報告、各部門の取り組みについて説明が行われました。大会前にJA熊本中

■SSスタッフが熱心に受講 労働安全衛生法特別教育

JA阿蘇は7月2日、労働安全衛生規則で定めるタイヤ空気充てんに関する法律の特別教育を、外部講師を招き本所で開きました。プリチストンタイヤサービス九州阿蘇店の福山武神店長が「空気充てんは簡単そうでもリスクの高い作業。毎年国内で1〜2件の死亡事故を含む重大事故が発生している。簡単な作業であるが、危険な業務と位置付け、今日の講習を受けて細心の注意を払い、作業にあたって頂きたい」と挨拶。続いて受講者は講師の説明やスライドを見ながら学び、質疑応答が行われました。午後からは会場を一宮給油所に移し実施教育を行いました。

中央の高道和喜部長が「コンプライアンスとは」と題し、事例を交えながら「風通しのいい職場づくり」に努めてほしい」と講演しました。



受講したスタッフは「これまで、安易に作業を行っていたが、これからは自分の身を守るためにも慎重に作業したい」と話していました。今回の教育は管内給油所スタッフを対象に行ったもので、一昨年より定期的に実施しています。管内給油所スタッフの約7割(正職員は全て)受講済みが既に受講しており、今後、業務に支障をきたさないよう、全員が受講し知識及び技術の向上を高めていく予定です。



講習(写真=右)後、現場でタイヤに関する指導を受ける職員

理事会・監事会報告

■平成20年度第4回理事会

日時 平成20年6月20日午後2時

場所 熊本交通センターホテル

1. 開会
 2. 組合長挨拶
 3. 協議事項
委員会報告(債権管理委員会)
5月末実績報告
 - 1) 第7回通常総代会開催について
 - 2) A T M顧客手数料の全国一律無料化にかかる
A T M顧客手数料の改定について
 - 3) 貸出金について
 - 4) 不良債権最終処理方針について(案)
 - 5) 20年度米出荷契約金について
- 報告事項1 平成20年度職員初任給について
報告事項2 平成20年度全体職員事業推進大会について

■平成20年度第5回理事会

日時 平成20年6月26日総会終了後

場所 阿蘇市農村環境改善センター

1. 開会
 2. 挨拶
 3. 議題
 - 1) 仮議長の選任について
 - 2) 代表理事及び役付理事の選任について
 - 3) 理事の順位について
 - 4) 農業委員の選任について
- 報告事項1 新任非常勤理事研修会の開催について

■平成20年度第6回理事会

日時 平成20年7月8日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
 2. 組合長挨拶
 3. 協議事項
 - 1) J A 阿蘇常勤体制について
 - 2) 各専門委員会の委員の互選について
 - 3) 貸出金について
 - 4) 平成20年度役員報酬について
 - 5) 職員夏季賞与支給について
 - 6) 職制規程の一部改正について
 - 7) 役員賠償保険継続加入と保険料徴収について
 - 8) 業務報告書の行政庁への提出について
- 報告事項1 新任非常勤理事研修会について
報告事項2 平成20年度座談会開催状況報告について
報告事項3 県畜産農業協同組合連合会理事への
高村祝次理事就任について

■平成20年度第7回理事会

日時 平成20年7月29日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
 2. 組合長挨拶
 3. 協議事項
委員会報告(金融共済専門委員会、経済専門委員会、
総務委員会、信用評定委員会)
6月末実績について
 - 1) 平成19年度決算期末監事監査回答書(案)について
 - 2) 平成21年度J A 阿蘇職員募集について
 - 3) 貸出金並びに畜産近代化リース事業について
 - 4) 専門委員会委員の一部変更について
 - 5) 事業のご案内2008(ディスクロージャー誌)について
 - 6) 支所運営委員の承認について
- 報告事項1 平成20年度米麦等標印監事監査実施について
報告事項2 J Aバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について
報告事項3 ガス料金改定及び周知徹底について
報告事項4 20年度米検査員及び担当職員配置について
報告事項5 平成20年度非常勤理事研修会開催について

●平成20年度第2回監事会

日時 平成20年5月27日 場所 ホテル法華クラブ会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
- 1) 平成19年度決算事務監事監査報告書(案)について
- 2) 平成19年度全国監査機構期末監査報告書について
- 3) 監事の選任議案同意について
- 4) その他

●平成20年度第3回監事会

日時 平成20年6月26日

場所 阿蘇市農村環境改善センター会議室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
- 1) 常勤監事の選任について
- 2) 監事の順位について
- 3) その他

●平成20年度第4回監事会

日時 平成20年7月17日 場所 本所会議室

4. 開会
5. 挨拶
6. 議題
- 1) 平成19年度決算事務監事監査回答書について
- 2) 平成20年度役員報酬について
- 3) 平成20年度米麦等標印監事監査実施(案)について
- 4) 平成20年度熊本県検査日程について
- 5) J A新任非常勤監事研修会の開催について
- 6) その他

平成21年度 JA阿蘇職員募集

1. 申込書類受付期間

◎高卒（平成21年3月卒業見込み）………学校を通じて申し込みをして下さい。
平成20年9月5日から平成20年9月10日

◎高卒（既卒）・短大卒・大学卒 ……………直接JA阿蘇本所に申込みして下さい。
平成20年8月20日から平成20年9月10日

2. 試験日（一次試験）平成20年9月17日（水）

3. 募集要領の配布 JA阿蘇本所 総務部総務人事課および各中央支所で配布します。

お問い合わせ先

JA阿蘇本所 総務部総務人事課 時松・馬場 電話0967-22-6111

JA阿蘇親善ソフトバレー大会 17チームが熱戦を繰り広げる

第5回JA阿蘇親善ソフトバレー大会が7月5日、長陽体育館で開催され17チームが熱戦を繰り広げました。開会式中尾雄二組合長が「年1回のこの大会で顔を合わせる職員もいるので、親睦を大事にして楽しんで下さい」と挨拶。前年度優勝チームの鳩野雛奈子さんが選手宣誓後、試合に移り、時には素晴らしいアタックがあったり、時には笑いかあったりで、選手のみなさん楽しい時間を過ごしました。試合の結果は次のとおりです。▽優勝＝小国チームC（小国郷中央支所）▽準優勝＝キセキ（阿蘇町中央支所）▽3位＝アスパラズ（一の宮中央支所）▽4位＝小国チームA（小国郷中央支所）

上位4チームは9月6日、合志市で開催される県大会に出場します。



優勝の小国チームC



準優勝のキセキ



3位のアスパラズ



4位の小国チームA